

事務連絡
令和3年2月10日

各都道府県 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局健康課予防接種室

新型コロナウイルスワクチン接種に係る冷凍ワクチンの冷蔵移送について

新型コロナウイルスワクチンの接種体制構築に向けて準備を進めていただいているところですが、今般、ファイザー社のワクチンを基本型接種施設から連携型接種施設及びサテライト型接種施設への移送時、または、巡回接種時の持ち運び時に使用する冷蔵移送用保冷バッグを下記のとおり配布します。

つきましては、貴管下関係機関等への周知をお願いいたします。

記

①保冷バッグ配布先

- ・配布先：基本型接種施設及び責任医師を決めて、市町村が管理する場所にディープフリーザーを設置する施設（以下「基本型接種施設等」という。）
- ・配布個数：1施設あたり4個

②保冷バッグ配布時期

基本型接種施設等に決定した施設より順次、2月中旬から5月下旬にかけて配布。

③保冷バッグの構成（1個あたり）

外気温35℃で12時間8℃以下を維持できるものとなっている。

- ・保冷バッグ（発砲EPS容器＋ターポリン生地（外装））：1個
- ・アルミ内箱：1個
- ・バイアルホルダー：1個
- ・保冷剤：4枚

※詳細な寸法等は別紙1参照

④保冷バッグ使用方法

別紙2参照

⑤ファイザー社のワクチンの冷蔵移送にあたっての留意事項

留意事項については、「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き」及び「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する医療機関向け手引き」参照すること。

⑥その他

- ・ 保冷バッグが5個以上必要な場合は、各自治体において、ファイザー社のワクチンの冷蔵移送にあたっての留意事項等を踏まえ、追加の保冷バックを購入して差し支えない。
- ・ ディープフリーザーが割り当てられていない基本型接種施設で、自治体等において購入等し既にディープフリーザーを所持している場合であって、今回の保冷バッグが必要な場合は、個別に当室へ連絡すること。
ただし、数に限りがあるため、配布できない場合がある。

保冷バッグの構成

- ①保冷バッグ（外装ターポリン生地+発泡EPS容器）
 外寸：358×300×H295mm 内寸：255×205×H195mm
 ※発泡EPS容器⇒板厚約45-50mm

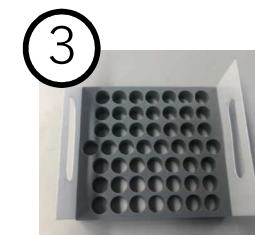
- ②アルミ内箱
 収納スペース：207×148×H59mm
 冷凍庫から取り出した後、30分程度常温に放置し
 ⇒BOX内に投入
 ※BOX内フタ裏側に注意喚起・セット方法を明記

保冷バッグ
 使用方法を貼付

- ③バイアルホルダー
 寸法：204×145×H48mm
 ファイザーワクチンバイアル16.25φ×H31mm ×50本収納


- ④保冷剤 480g（3℃融点保冷剤）×4枚
 寸法：220×140×H22mm

35℃環境下で12時間8℃以下を保持



保冷バッグの使用方法

- (A) 前日の準備(移送開始12時間以上前)：
保冷剤(Cool LAB 3)×4枚 を冷凍庫(約 -20°C)に投入し凍結させる
絶対に -75°C 用のディープフリーザーに投入しないこと！

-  (B) 移送**30分前**(時間厳守)：**必ず実施のこと**(バイアル再凍結を防止)
冷凍庫から4枚の保冷剤(Cool LAB 3)を取り出し
常温環境(15°C から 25°C)に置く

- (C) 移送直前：以下の手順でセッティングを行う。
- ①1枚の保冷剤(Cool LAB 3)を保冷バッグの底に置く。
 - ②アルミ内箱を①の保冷剤の上に置く。
 - ③アルミ内箱の蓋を開け、ディープフリーザーからバイアルを速やかに移し、アルミ内箱の蓋を閉める。
 - ④2枚の保冷剤(Cool LAB 3)をアルミ内箱の両脇に差し込む。
 - ⑤1枚の保冷剤(Cool LAB 3)をアルミ内箱の上の置く。
 - ⑥保冷バッグの蓋を閉める。



保冷バッグ



アルミ内箱

バイアルホルダー
(バイアルはダミー)保冷剤(Cool LAB 3)
(3°C 融点保冷剤)

前日の準備



移送30分前



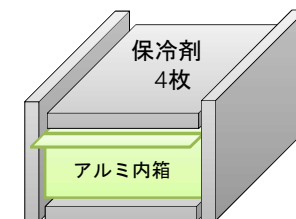
①



④



⑤

保冷剤
4枚

アルミ内箱